

平成29年度予防接種対策委員会 会議録

- 1 開催日時
平成30年1月31日（水）
開会 午後2時00分
閉会 午後3時40分
- 2 開催場所
尾張旭市保健福祉センター 4階 シアタールーム
- 3 出席委員
金森俊輔、安藤郁子、山本ゆかり、松尾功、森下雅史、大江英之 6名
- 4 欠席委員
1名
- 5 傍聴者数
0名
- 6 事務局職員
健康福祉部長 若杉浩二、健康課長 臼井武男、
課長補佐兼係長 加藤ひとみ、主査 上原敦子、主査 廣岡真由美
- 7 議題等
 - (1) 平成28年度及び平成29年度尾張旭市予防接種実施状況について
 - (2) 平成30年度尾張旭市予防接種事業について
 - (3) 予防接種間違い事例について
 - (4) その他
 - ア コッホ現象（疑いを含む）ケースの経過
 - イ 予防接種スケジュール管理モバイルサイト「あさびー予防接種ナビ」について
 - ウ 年長児の予防接種状況

8 会議の要旨

事務局	開会のあいさつ。 乳幼児の予防接種スケジュールは過密かつ複雑になり、医療機関の協力を得ながら適正接種を推進している。予防接種スケジュールを自動作成するあさびー予防接種ナビも始めた。ロタの一部助成についても30年度から開始を予定している。 本市の予防接種事業を確認していただき、専門的な見地からご意見くださいますよう、よろしくお願ひしたい。
委員長	あいさつ
事務局	『平成28年度及び平成29年度尾張旭市予防接種実施状況について』説明。
委員A	H i b、肺炎球菌の接種率が低いと思うが。例年と同程度か。原因はつかめているか。

事務局	例年と比較しても低くなっている。原因はつかめていない。
委員B	ワクチンにより髄膜炎罹患は減ってきている。ここで接種率が落ちてしまうのはもったいない。スケジュールが複雑になっていることもあるが。
委員A	10か月健診を受診した方へは案内をしているが、それほど受診率が高いわけではない。1歳直前で周知する方法を検討していけるとよい。
委員B	風しんに関しては、妊娠時に検査することが多い。対象を広げて実施している自治体もある。風しんが増えた後、先天性風しん症候群の増加もあった。母親だけでも希望者には助成ができると良い。医療費等と比較すれば安い。実施について検討していただきたい。
事務局	県制度開始前に市単独で実施していたが、県が開始することにあわせ内容を検討し整理した。必要であれば委員会の中での意見として今後検討することも考えたいと思う。
委員B	予算の関係もあり、すぐにできないことは承知している。検討をお願いしたい。
事務局	『平成30年度尾張旭市予防接種事業について』説明。
委員A	MR2期は6歳になっていなくても接種は可能か。 高齢者インフルエンザは今年度は2月末までの実施だが、来年度はどうなるのか。
事務局	MRは年長児が対象なので、6歳になっていなくても可能。高齢者インフルエンザは今年度は2月末まで実施したが、来年度は1月末までで予定している。
委員C	MR2期の実施時期は3月31日までで良いか。
事務局	3月31日までです。
委員A	接種時期や間隔については、保護者に対してもこの資料の内容程度を示しているのか。 「標準的な」という記載の仕方と、法的に可能な時期の記載と違いがあると混乱しやすく、間違いにもつながるので、標記の仕方を統一しておけるとよい。
事務局	『予防接種間違い事例について』説明。
委員B	医学的に問題のあるケースは有効期限切れ、不良ワクチンのみ。これを防ぐことが重要。母子健康手帳の記録様式の差異が間違いにつながりやすい。どこに記録をするか、という記録の仕方について統一できるとよい。
事務局	記録の仕方については、29年秋に医師会を通じて周知をさせてもらった。
委員A	28年度と比較し、29年度については明らかに傾向が変わってきた。乳児期の間違いが減ったのは、医師会が中心となって、スタッフを含めて行われた研修会が役に立っている。 日本脳炎については経過措置がある関係で非常にわかりにくい。 接種間隔については、もう少しわかりやすい表現にしないと間違いやすい。何週後の同じ曜日とか、何ヵ月後の同じ日のように記載したほうがわかりやすい。
事務局	法解釈として間隔の捉え方については示しがでている。月についてはその月により同じ日がない場合もあることで間違いがおこりやすい。
委員A	29年度分をまとめて、間違いやすいところの、傾向と対策を検討してもらいたい。 研修会はぜひ来年度も実施できるとよい。

事務局	日本脳炎 9 歳の特例対象者について、平成 21 年 10 月 2 日以降の生まれは対象にならず、不足分を公費で対応できない。このことについて、保護者及び医師会へどのように周知していくが課題。
委員 C	子どもが大きくなると保護者は母子健康手帳に対する意識が薄くなる。意識のある医師は年に 1 回インフルエンザの予防接種時に接種歴を確認し、忘れがあればそこで勧奨することもできるが、予防接種に関して意識が低ければそれもできない。保護者へはきちんと 9 歳、12 歳で接種する予防接種があることを伝えていくことが必要。
事務局	『平成 29 年度コッホ現象（疑いを含む）ケースの経過』説明。 相談を受けたケースは 5 件。そのうち 2 件は陶生病院へ受診。近年コッホ現象を疑うケースが多くなっている。原因については何が考えられるのか。
委員 B	こういった反応が一定の割合ででてくるものではないが、数日で症状がおさまれば問題ない。消退しないものは様子を見ていくことが必要。経過を見ていき、1 か月後の通常の反応がきちんと出てくるかを確認することが必要。対応の仕方としては今までどおりの流れで対応していけば良いと思う。
事務局	3 日間の経過を並べて見てもらっているが、これで判断可能か。
委員 D	ある程度可能。
委員 B	事例はこれですべてか。
事務局	健康課のみで判断できかねるため、すべて相談させてもらっている。今回あがったケースがすべてである。
委員 C	これらのケースは母から相談がきているのか。
事務局	そうです。電話や来所で相談を受け、経過を見るため数日写真を撮ってもらい、メールで送ってもらうようお願いしている。
委員 B	接種後の反応を注意してもらうために保護者への周知はしているのか。
事務局	接種時に資料を配布している。その配布資料を見て相談されることが多い。
事務局	『予防接種スケジュール管理モバイルサイト「あさびー予防接種ナビ」について』説明。 28 年 6 月から配信開始。周知は子ども医療費受給者証交付時にチラシを配布、そのほか健診の個人通知で案内。
事務局	予防接種のスケジュール管理以外にも、予防接種についての情報やその他 PR したい情報が見れるようになっている。登録者は 1 歳未満が多い。利用することで接種間隔ミスなど減っているのかもしれない。日本脳炎特例は対応できない。
委員 A	スケジュール管理は、標準の期間の中で一番短い間隔で設定しているのか。
事務局	標準期間の中で自動調整している。
委員 C	周知はどのようにしているのか。
事務局	子ども医療費受給者証交付時にチラシを配布している。その他広報にも QR コードを載せたり、こども子育て応援メール等で PR している。
委員 B	こどもの登録と親の登録はどう違うのか

事務局	親1人につき、子どもが2、3人のこともあるので数が違う。
事務局	アンケート調査を今後予定している。来年度の対策委員会で説明できるようにしたい。
事務局	『平成29年度年長児の接種状況』について説明 今年度年長児の子どもは、ポリオが生ワクチンから不活化ワクチンへ変更、あわせて4種混合が始まった時期にあたり予防接種のすすめ方が大きく変わった時期。そのため、接種し忘れていないものがないか確認が必要である。7歳6か月未満まで対応できるので、接種勧奨を実施している。2月に再度未接種者へ通知を予定。これだけしていてもMR、日本脳炎などは接種率が低いことが課題である。今後の効果的な勧奨についてご意見を伺いたい。
委員A	未接種者の中で、接種をしないという意思の保護者はどれくらいいるのか。
事務局	就学時健康診断時において、各学校にだいたい1人いる。
委員A	接種しないという意思の保護者に関してはどのような対応をしているのか。
事務局	接種の必要性等は説明するが、なかなか接種には至らない。
委員B	案内通知の内容については、対象に合わせてもう少し内容を絞ったほうが良いのか、兄弟の分も確認してもらえよう幅広くしたほうが良いのか、どちらの方法も良い点がある。 初回の接種勧奨が9月の場合、インフルエンザの予防接種が始まってくるため、日本脳炎がまったく未接種だと1年後に追加を、という話ができなくなる。勧奨は少しでも早い時期のほうがよい。
	(予防接種対策委員会を閉会)